



はまなす季刊

医療法人はまなすHP >>> <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人 はまなす 篠路はまなすクリニック

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人 はまなす はまなす医院

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555

はまなす医院は
3月15日で
開院30周年を迎えました。

当院の腎臓内科診療

巻頭言

副理事長 工藤 立史

はまなす医院は、開院22年目（平成27年）より私が腎臓内科の診療を行っています。

慢性腎臓病は国民の8人に1人が持つていると言われますが、自覚症状が出にくいいため、医療機関を受診できていない方もいます。厚生労働省の腎臓病重症化予防対策として、軽症のうちに受診するよう促していることも奏功し、ここ数年は早期の患者さんが増えてきました。

先日、紅麹のサプリメントを服用している方が受診され、検尿で軽度の尿蛋白が確認されました。紅麹との因果関係が否定できないため、まず中止して経過をみることになりました。この方は紹介状もなく、ご自分で腎臓内科の病院を探して来られています。腎臓内科の専門性が浸透してきたことを感じています。

石狩市内で腎臓内科を標榜している医療機関は当院のみです。高齢化に伴い腎臓病を患う方が増えていく中で、ますます地域の皆さんに貢献できるよう頑張ります。



直木賞作家を読みふける 〜コロナ感染と読書〜

理事長 工藤 岳秋

この4月、とうとうコロナに感染。規定に従い自宅待機となった。発熱は半日で収まり、倦怠感からもすぐに回復。強烈な咽頭痛だけが数日続いた。身体を持て余し気味だが外には出られない。室内で楽しめそうなことはないだろう。本棚の直木賞作家の小説が目に入った。書評に惹かれて購入してからかなり経っている。「積読」を減らすチャンスだ。

まず手に取ったのは川越宗一著、「見果てぬ王道」。中国の革命を応援し続けた実業家、梅屋庄吉の一代記である。明治の中頃、長崎の貿易商の跡継ぎだった庄吉は、香港に渡り写真館を経営していた。そこで中国清王朝を打倒し、西洋の武力支配からの自立を目指す若き革命家、孫文に出会う。列強の侵略を理不尽に感じていた庄吉は支援を約束。蜂起と失敗を繰り返す彼らに湯水のごとく金をつぎ込んだ。後に日活の前身、M.P.パター商會を創業し黎明期の

映画産業で大成功を収め、その資金でさらに革命を後押しする。庄吉と孫文を単に英雄視せず、あえて人間くさい部分にスポットを当てていたのが印象的だった。

次は桜木紫乃著、「家族じまい」。介護がテーマのホームドラマだ。釧路に住む母親、サトミが認知症になった。糖尿病で、目につく食べ物を全て口に入れてしまうため、台所や冷蔵庫に食材を置いておけない。世話するのは若い頃横暴だった父親。函館の次女が二世帯住宅に迎えてくれたものの、思惑の違いから、三か月余りで釧路に戻ってしまった。時折サトミを訪ね寄り添ってくれる82歳の姉は健やかだが、夫とは離別し二人の娘との縁も切れている。家にいるサトミの「知らない人」は、入院の準備をするために江別から来た長女…。身近なところで起きていそうな物語であり、全てが切なく悩ましかった。

3冊目は河崎秋子著、「ともぐい」。道東、白糠の山奥で、野生動物との熾烈な生存競争をくぐり抜け、独り生きる猟師、熊爪。仕留めた鹿や熊の肉を人里に降りて売り、弾丸と米を入手し

て戻っていく。日露戦争が近づき、農漁業の町だった白糠にも炭鉱が開発され、人々は近代化に翻弄されていた。そんな中、熊爪は、山を越えて領分を侵した熊と闘って手負いとなり、謎めいた盲目の少女にぬくもりを求める。本能に従って獣でありたいという願望と、人間である現実。「ともぐい」とは果たして…。グロテスクともいえる狩りのシーンや巨大な熊の憤怒に満ちた形相など、真に迫る描写に戦慄が走った。

大衆文学によるリフレッシュ効果は絶大なものがあつた。職場に復帰したときは、以前見えていなかったものが見え、気力がみなぎりエネルギーが増したように思われた。コロナに感謝する気は毛頭ないが、活字の世界に浸ることができた贅沢な時間のおかげである。

もちろん、そんな贅沢がたびたび許されるべきものではない。もう一度、日々の生活の中で、読書に費やす暇がないか、探してみよう。

★

4日間にわたり代診していただいた佐藤裕二先生、三好敦子先生、副理事長に心から感謝申し上げます。



川越 宗一

1978年、鹿児島県生まれ。
2020年、「熱源」で
第162回直木賞受賞。

桜木 紫乃

1965年、北海道生まれ。
2013年、「ホテルローヤル」で
第149回直木賞受賞。

河崎 秋子

1979年、北海道生まれ。
2024年、「ともぐい」で
第170回直木賞受賞。

マイホビー

決定的瞬間を求めて

副理事長 工藤 立史



私の趣味の一つにバードウォッチングがある。とりわけコロナ禍でも感染リスクを気にせず楽しめるため、この2～3年は頻繁に出かけるようになった。

近場の野鳥観察スポットを検索したところ、石狩市生振の防風林がヒットした。シマエナガ

をはじめ、多くの野鳥がみられるとのこと。ある冬の日、そこを訪れたところ、シジュウカラなどのカラ類やキツツキ類が飛び交っていた。防風林のそばには農道があって、15台ほどの車が連なって路上駐車していた。そしてその脇には大砲のような超望遠レンズ付きのカメラを構えている人達がいいて、レンズの先が一点に集中している。何を狙っているのか聞いてみたところ、シマエナガがホバリングしながら氷柱を舐める瞬間を待っているとのことである。

カエデの樹液が作り出す氷柱にはメープルシロップのような甘みがある。冬の貴重なエネルギー源なのだ。

以後、私も撮影機材を購入し、そこへ通い出した。すばしこく動き回るシマエナガを見つけるのは難しいのだが、ベテランのバードウォッチャーについて観察するうちに、私も可愛らしい姿を撮影できるようになった。しかし、氷柱を舐める場面に遭遇するチャンスは訪れなかった。

ところが、そのチャンスは意外なところからもたらされた。自宅近くの防風林にもシマエナガが現れるとの情報を耳にしたのである。散歩がてら2月の晴れた日に行ってみると「ジュルリジュルリ」という声がする。シマエナガだ！ 辺りを見回すと5～6羽ほどが飛び回っているではないか。枝から垂れる氷柱を舐めるものもいた。すぐに飛び去るのだが、また舞い戻ってくる。もしかしたら決定的瞬間を撮影できるのでは、と考えて一つの氷柱の前で待ち構えることにした。すると、数分後に一羽が目の前でホバリングし始めた。これはシャッターチャンスとばかりに夢中で連写した。あとで確認すると、氷柱を舐めている可愛らしい写真が見事に撮れていた。即日SNSに投稿したところ反響があった。自宅そばの防風林であることを伝え、翌日数名がかけつけてきた。しかし残念ながらシマエナガが現れることはなかった。

その日によって目当ての鳥が見られないこともあれば、予期せずクマゲラなどの珍しい鳥が現れることもある。確実性がないところが面白いところでもある。写真撮影をせず野鳥観察するだけであれば、それほど大掛かりな準備は不要である。我ながら存外良い趣味だと思っている。



市民向けに腎臓病の講演をしました

とき

2024年3月14日(木)

場所

石狩市花川北コミュニティセンター

腎臓内科 工藤 立史

石狩市では、毎年「石狩市特定健診事後教室」という市民向けの講演会を開いています。3年ぶりに、腎臓病に関するお話の依頼があり、私と伊藤栄養士が出向きました。対象は、健診でクレアチニン上昇や尿異常を指摘された方々です。市が該当者に呼びかけたところ、19名の参加を得ました。

毎年3月の第二木曜日は「世界腎臓デー」であり、腎臓病の早期発見と治療の重要性を啓発する取り組みとして国際腎臓学会などが提案した記念日です。たまたま私が講演会を実施した3月14日が今年の世界腎臓デーにあっており、腎臓病のお話をするにはタイムリーでした。

まず私が腎臓の動きや仕組み、治療法について40分ほど講演し、続いて伊藤栄養士が腎臓病の食事療法について20分ほど講演しました。講演後に質疑応答があり、「尿管結石があるのだが、腎臓病があると結石ができやすいのか？」や、「腎臓病の食事療法は、カロリー摂取が大事だと聞いたが、肥満患者さんにカロリー摂取を促してよいのか？」といった鋭い質問をされる方もいて、熱心さが伝わってきました。

腎臓病を早期に発見し、進行を抑えるためには健診が大きな役割を果たします。前回2021年には、講演をした後で参加者の一人が当院の外来を受診してくださいました。これからも市民が腎臓内科を受診しやすくなるように、石狩市と協力していきたいと考えています。



あなたの特技を教えてください



女の子ならトウシューズとチュチュに一度は憧れたことがあるのではないのでしょうか？探してみると、意外にも近くに憧れの彼女たちがいたようです。さっそくお話を聞いてみましょう。

はまなす医院
病棟看護師 松村来未さん



篠路はまなすクリニック
臨床工学技士 中村桜さん

聞き手…原明美

Q バレエを習っていた期間は？

松村さん 3歳から18歳まで。

(就職してから数ヶ月だけ習っていたことも…)

中村さん 4歳から9歳まで。

(父の仕事の都合で9歳の時辞めてしまった)

Q 始めたきっかけは？

松村さん 幼かったので覚えていないのですが、母が教室に連れて行ってくれて自分もやりたいと言ったそうです。

中村さん 同じ幼稚園の友達が習っていたかわいいな〜と思ったのがきっかけです。

Q つらかったことは？

松村さん 初めてトウシューズをはいた時。水ぶくれができて血だらけになり泣きながら履いていました。すごく痛かったのを覚えています。

中村さん 特になかったです。

Q バレエを続けてよかったことは？

松村さん 全体の動きを感じながら動きをそろえて踊るので、協調性がついたと思います。コンクールや大会前は、毎日朝から夕方まで練習の日々だったので、忍耐力や継続力が身についたように思います。他にもバレエで身につけておきたい力がたくさんあり、長い間習わせてくれた両親と教室の先生に感謝しています。

中村さん かわいい衣装を着て踊れた

Q 思い出は？

松村さん 振り返ると、毎日のレッスンが思い出です。レッスンが終わってから友人と自主練をしたりして切磋琢磨した日々でした。

中村さん 小さい頃なので多くは覚えていないのですが初めての発表会で大きなステージで踊ったことはよく覚えています。また、弟が私の影響でバレエを始めて今ではプロを目指すと言って頑張っています。

ぜひ一度、何かの機会に華麗な踊りを披露して頂きたいですね。その時はお二人よろしくお願いします。



当時の中村桜さん



当時の松村来未さん

= 失われなかった 30 年 = 「はまなす医院」の 30 年間の軌跡



会長 工藤 謙三

石狩のはまなす医院は 1994 年 3 月 15 日に「はまなす外科医院」としてオープンした。のちに「外科」を省いて法人化して「はまなす医院」となるが、当初からかかりつけの医療を目指していたから名称の変更は自然の成り行きだった。

当時はケータイはおろか PC も普及しておらず、ポケットベルが唯一の伝達のアイテムだった。呼び出し音を受けてから固定電話を探して連絡を取るのだからまどろっこしいことこの上ない。医院と連絡の取れない郊外には出かけづらかった。

その後携帯電話が登場して便利になった、と思っているうちに瞬く間にスマートフォンが席捲する。いまやガラケーを抱えながらついてゆくのにオオワラワである。振り返れば「はまなす」の 30 年間は通信手段の革命的な変革期に重なっていたことになる。

この間に当然のことながら透析医療も進歩した。

透析液はプラスチックのタンクに入っていた。どこの透析施設も透析液のプラスチック容器であふれかえっていた。次第にそれが粉末となってコンパクトになった。そのころ透析回路の「プライミング」はビギナーにとって難儀なテクニックだった。複雑に絡まった透明なプラスチック回路をコンソールに取り付け、透明な生理食塩水を迷路のような回路に注ぎ入れるのである。一連の捜査の習熟には時間を要したがこの問題もコンピューター制御による自動化が進んで劇的な改善を見た。同様に透析が終了した後に血液を体内に戻す「返血」も自動化され、省力化と安全性の向上が図られたのは周知のとおりである。

30 年の歳月を通して繰り返し大災害が起こった。時系列に列举してみたい。

1995 年 1 月 17 日。当院が開業した翌年に阪神淡路大震災が発生。朝の TV ニュースにくぎ付けになった。

2001 年 9 月 11 日。アメリカ同時多発テロ。石狩から夕方帰宅する車中のラジオの報道にただ事ならぬ思いを感じた。帰宅して TV に映し出される画像に息をのんだ。NY の貿易センタービルが崩れ落ちると思ってもよらないことだった。世界平和の訪れなど幻想かもしれないと思った。

2011 年 3 月 11 日。東日本大震災。午後になって石狩の医院の透析室の巡回をしている最中に起きた。患者の床頭台の TV の映像に言葉を失った。崩落と津波の恐るべき破壊力をまざまざと見せつけられ、同時に起こった原発事故はいまだに根本的な処理の糸口がつかめないように見える。

2022 年 2 月 24 日。ウクライナ侵略。プーチンには人間の心がないのかもしれない。地球人がそろって天変地異に立ち向かうべき時になんたることか。ひたすら犠牲の少なからんことを祈るのみである。

2024 年 1 月 1 日。能登半島地震。元日の夕方を巨大な地震が襲った。新年を祝う夕餉の時間帯であった。被災者の方々を思うとき胸が塞がれる。翌日には救護に向かう飛行機と日航機が衝突して炎上した。あまりにもお気の毒で慰めの言葉が浮かばない。

このほかイラク戦争、トルコ地震、ハマスのテロに対するイスラエルの報復攻撃など世界各地の戦乱と天変地異は枚挙にいとまがない。

たくさんの人災、天災を経て思うことは医院経営に対する責任の重さである。

災害や戦争で自助努力を超える事態になったらどうするのか。後継者の二人の息子に引き継がれてこれまでのところ「はまなす」は順風であった。年齢 78 才になった今過ぎ去った 30 年を雑駁に振り返ってみたが、これからも順風、逆風、様々に吹き荒れるであろう「はまなす号」の今後の航海の無事を願うばかりである。

1990 年以降日本経済は停滞して失われた 30 年といわれた。今年早々から株価が超値上がりして 34 年ぶりに停滞から立ち上がったと新聞の経済欄が躍っている。

思えばこの経済停滞の 30 年間に「はまなす」は失われることなく伸びてきた。関係各位に深甚な謝意をささげる次第である。



医療法人
はまなす

篠路はまなすクリニック

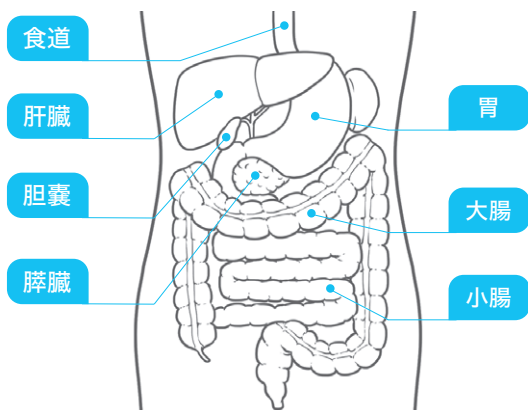
消化器センター開設のお知らせ

2024年5月1日、消化器内視鏡学会専門医が常勤医として加わり、
消化器センターを開設しました。検査・治療の幅を広げ、
地域で完結する消化器診療を目指します。

消化器とは？

消化器とは、食べ物の通路である食道・胃・小腸・大腸、消化に関わる胆嚢・膵臓、そして取り込んだ栄養を蓄える肝臓など消化吸収に関わる内臓のことをいいます。

消化器センターでは、大腸がん検診で便潜血陽性の方、胃バリウム検査で要精検とされた方、肝機能障害を指摘された方、腹痛・下痢・嘔吐などの症状がある方などに対して、大腸カメラ、胃カメラ、エコー、CTなどを用いて診断・治療を行います。病気によっては、外科手術にも対応します。



センター長

山本 純司 医師
(消化器内科)



1997年 北海道大学卒業 医学博士

日本内科学会：総合内科専門医

日本消化器病学会：消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会：消化器内視鏡専門医・指導医

略歴

北海道大学病院 光学診療部

スウェーデン王立カロリンスカ大学病院 内視鏡部

札幌社会保険総合病院（現 JCHO 札幌北辰病院）消化器内科

釧路労災病院 内科部長

太黒胃腸内科病院 副院長

歓送迎会を
しました



4月6日（土）『^{ひゃく}珀や』札幌駅 JR 高架下店で篠路はまなすクリニックの庶務と厨房の歓送迎会を行いました。総勢19名が参加しました。コロナの影響で先延ばしになっていまして、ほとんどの方が歓迎の対象なのですが4年ぶりの開催という事もあり歓迎会というよりも親睦会の様な雰囲気です皆さん楽しんでいました。

（袋田）



エコーを辞書で引くと「山びこ、こだま」と出ている。医療でエコーは超音波検査を指すけれどももとエコーという名はギリシア神話にルーツがある。

古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』（講談社学術文庫）には神々によって変身をとげた様々な話が散りばめられている。そのなかで妖精エコーと美少年ナルキッソスのエピソードは美しくもせつない。

　　「全能の神ゼウスは精力旺盛にしてあちらこちらに子供を作った。一方でその妻のヘーラーは嫉妬深くゼウスの浮気相手を見つけては容赦なく罰をあたえた。

あるときエコーは、ヘーラーを相手に歌とおしゃべりを長々としつづけたことがあった。ゼウスの浮気相手となった山のニンフたちをかばったのだ。このためエコー自らがヘーラーの怒りを買うことになった。

その結果受けた罰によって、自分からは話しかけることができず、なおかつ相手が話す言葉の言葉尻を繰り返すことしかできなくなってしまう。

そんなエコーがあるとき美少年のナルキッソスに恋をした。だが、エコーはナルキッソスが話す言葉を繰り返すばかりである。退屈なだけのエコーは相手にされず、屈辱と悲しみから次第にやせ衰え、ついには肉体をなくして声だけがコダマするようになった。

一方美貌の少年ナルキッソスはあるとき美の女神アプロディーテからの贈り物を侮辱したことがあった。美の女神といへば優しそだが祟りはコワイ。ナルキッソスを愛する者はだれであれすべてが彼を所有できないようにしたのである。

孤独なナルキッソスは、泉のほとりにたたずみ、日がな一日水面に映る己が姿に恋こがれる。しばらくするうち彼の姿は消え、いつの間にかそこに水仙の花が咲くようになったという。（蛇足ながらナルキッソスから派生した言葉に「ナルシズム」自「己愛」がある。）

いまやエコー検査は医療にとって欠くべからざるものである。しかしディスプレイに映し出される画像を見るたびに、姿の見えない妖精に体内をのぞき込まれているようでどこか薄気味

悪い。可聴域を超えた超音波の世界で「エコー」はいまも何かを叫んでいる。声にならないエコーの声は陰影としてわずかに画像に捉えられるのみであるが、医療者は彼女の貴重な叫びを見過ごしてはなるまい。

オウィディウスは帝政ローマ時代にギリシア神話を文学として今日に残した。

変身物語を読むことによって、エコーとナルキッソスの逸話に繋がりのあることがわかった。文学は架空の物語が原点である。そんな架空の話を面白がっているうちにすっかりオウイディウスの世界に引き込まれてしまった。

神の怒りに触れたとして自分なら何に変えられてしまふのだらう？

診療案内

篠路はまなすクリニック

		月	火	水	木	金	土
消化器内科 内科一般	AM	山本	山本	山本	山本	山本	(工藤岳)
	PM	(検査時は代診)					

外科	AM	工藤岳	工藤岳 9:30～	佐藤 9:30～	工藤岳	工藤岳 9:30～	工藤岳
	PM	工藤岳	休診	北大出張医	工藤岳	工藤岳	
		(手術時は休診)					

腎臓内科 (予約制)	AM					三好 (北大出張)	
	PM		工藤立				

はまなす医院

		月	火	水	木	金	土
AM		工藤立 (内科)	佐藤 (外科)	工藤立 (内科)	工藤立 (内科)	工藤立 (内科)	工藤立 (内科)
	PM		工藤岳 (外科・内科)				

新人職員紹介



篠路はまなすクリニック
厨房調理員
伊川 巴奈さん



篠路はまなすクリニック
臨床工学技士
米津 祐菜さん



篠路はまなすクリニック
看護助手
浅野 恵子さん

編集後記

巷ではサウナが流行っており「サウナー」や「熱波師」「ととのう」などの言葉を耳にする。そんな私もサウナ歴30年のサウナーだ。熱波師がタオルで扇ぎ熱風をかけられる拷問は叫びそうになり、一気に汗が噴き出る。そして後半は自分との闘いである。あともう少し、もう少しと熱さに耐えぬき、水風呂そして外気浴。「は

あー」と思わず声が。頭のでっぺんから魂が抜けるような瞬間が訪れる。それが「ととのう」である。こうして疲れをいやした後に飲むキンキンに冷えたビールは格別だ。今やサウナテントなるものも話題だ。川の中へ飛び込むものもあるらしい。いつか、体験したい。(N・Y)